

学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに



Copilot で作成

日本人らしさ

校長 佐藤 信孝

2号続きのFIFAワールドカップ（以下、W杯）の話ですみませんが、いよいよ開幕しました。様々な国が競い合うこの大会は、サッカーという単一の競技ゆえに国ごとの国民性、文化や価値観が現れるのも特徴的です。サッカーのグローバル化が進み、欧州に有力選手が集まる現代ではその色合いは薄れつつありますが。

日本代表監督の森保一監督は、2018年の就任会見で「日本人らしく、日本人の良さを出して戦い、世界と向き合っていきたい」と述べ、協調性や献身性を日本代表の特徴として挙げました。代表チームは長く「組織力」に強みがあると言われ、W杯のたびにロッカールームの清掃や折り鶴を添えたメッセージ、観客の清掃活動などが「日本人のよさ」として称賛されてきました。

日本人の協調性や献身性の背景には、稲作社会での共同作業、島国ゆえの安定した共同体、五人組制度などの社会制度が影響していると言われます。学校教育でも掃除や給食当番、学級活動、委員会活動、運動会などの学校行事を通して協調性を育んできました。文化的・教育的な影響のもと、家庭でも自然と身に付けられてきた資質なのでしょう。私自身も担任時代、「心をひとつに」などの言葉でクラスをまとめ、協調を価値あるものとして強調してきた面があります。

しかし、協調性や献身性を過度に強調すると、同調圧力や排除につながる危険があります。集団への協力を当然とし、それができない人を否定する風潮が生まれる可能性があります。また、「協調できる人」を外見や背景、経験で決めつけ、ラベリングの外にある人を排除してしまうことも起こり得ます。こうした状況は、いじめ的な行為を肯定する空気を生み、「協調」や「献身」を強要される側にとっては大きな負担となります。個性が尊重され、多様性が広がる現代において、協調性と個性のバランスをとることは容易ではありません。

今回のW杯日本代表は、多くの選手が欧州でプレーし「史上最強」と言われました。大会前、ある選手は「史上最強かどうかはわからないが、史上最高のチームである」と語りました。代表に選ばれる選手は、子どもの頃から競争を勝ち抜き、自らの力を示してきた人たちです。当然、個性も強く、主張もはっきりしています。それぞれの所属チームやリーグの「格」や所属チームでレギュラーなのかなどもきっと人間関係に影響するはずですが、しかし前述の選手の発言やゲームの様子を見ると、勝利という共通の目標のために互いの特徴・違いを認め合い、考えをすり合わせ、味方のために走り、守り、戦術を共有しながらチームとしての手応えをつかんできたことが伝わってきます。森保監督の人柄を含めたマネジメント能力のすばらしさも含め、サッカー日本代表のゲームで選手たちが協力し合う姿は、協調性と多様性の両立の一つの形を示しているように思われてきます。

何十年後、日本人の特徴がどのように語られているかはわかりません。しかし、泰平小の子どもたちには、一人ひとりの個性を尊重しながらも、必要な場面では協力し、お互いのために力を出し合える人になってほしいと願います。社会に受け入れられながら、幸せで、なりたい自分になってほしいと願います。これは簡単なことではありません。学習や生活の中で多くの経験を積み、試行錯誤を重ねることで、これからの時代にふさわしい協調性や献身性を身に付けていってほしいと思います。

＊

いよいよ梅雨の時期特有の高温多湿を感じます。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、見守り活動をはじめ、様々な場面でのご協力に感謝申し上げますとともに、暑さ対策を十分にされますよう、お願いいたします。